

委員会報告

## 調査・研究委員会の今期の調査活動について

# —学校アーカイブズと地域の 組織・団体アーカイブズの保存のために—

調査・研究委員会 嶋田 典人・山本 太郎

### はじめに

全史料協調査・研究委員会の今期の調査活動では、現在、急速な地域や社会の変化に伴い、多くの地域アーカイブズが散逸や消滅の危機にあることに鑑み、学校アーカイブズを中心に、そのほか地域に所在するさまざまな組織や団体のアーカイブズ、時期的には近現代のものに焦点をあてて、現状の把握と保存・活用に向けての課題などについて検討してみたいと考えている。今後のスケジュールは、できれば年内にアンケートを出して、回答していただく予定である。アンケートを集計したうえで、分析し、あるいはいい事例があればこんな事例があるということも集め、来年度それに基づいて簡単な報告書を作成することを予定している。それをふまえて来年の大会で成果の発表をし、来年度内にPDF版で出すことで調査活動をまとめたいと考えている。

## 1 地域の組織・団体アーカイブズに関する調査

### (1)調査の趣旨

地域アーカイブズの中でも、民家所蔵の古文書は、日本の地方自治体アーカイブズ機関では以前から収集対象にしてきた実績があり、収集のノウハウや文書群の研究が積み重ねられてきているが、近現代の組織や団体のアーカイブズについては、比較的関心の外に置かれてきた傾向があるのは否定できない。しかし、多くの組織や団体は地域の中で重要な役割を果たしており、公的性格をもってい

ることから、それらのアーカイブズは貴重な知的資源といえる。組織や団体の中には、アーカイブズを経営資源と認識し、自らのアーカイブズを組織的に適切に管理・活用しているところもあるが、さまざまな制約から必ずしもそうした組織・団体ばかりではない。そのため、何もしないでおくとそれらのアーカイブズは死蔵されるか、散逸や滅失してしまう可能性がある。組織・団体アーカイブズを保存・活用することは、地域の歴史や現在を未来に伝えていくことにもつながる。そこで地域に所在するさまざまな組織や団体のアーカイブズに焦点をあて、現状の把握や保存・活用に向けての課題などについて検討してみたい。

この調査が、地域の組織・団体アーカイブズへの関わり方や、移管・収集のための基準づくりの参考になることを期待したい。

### (2)調査方法

調査対象は地域に所在する組織や団体のアーカイブズ、これは時期的には近現代で、調査対象自治体の組織アーカイブズ以外のものである。具体的には活動に関する記録資料のほか、組織や団体が発行した報告書、音響・映像・画像なども含む。なお学校関係は学校アーカイブズの調査で回答いただくためここでは除外する。そうした地域の組織や団体のアーカイブズのうち、自治体立のアーカイブズ機関が継続して引継ぎ・移管しているもの、あるいはある程度まとまった分量を一括して収集したものを対象に、アンケート調査を行



委員会報告

う。個人から寄贈・寄託されたケースでは、その組織・団体の代表者を務めた個人からなどで、ある程度まとまった分量のものの場合には対象にする。逆に、個人から寄贈された民家文書に断片的に含まれるようなケースは対象にしない。

### (3)調査対象機関

全国の地方自治体の公文書館（国立公文書館のホームページに掲載されている機関）＋全史料協機関会員のうちの地方自治体関係機関＋公文書館機能整備自治体（「公文書館機能ガイドブック」に掲載されている機関）を調査対象にする。

（報告：倉敷市総務課 山本太郎）